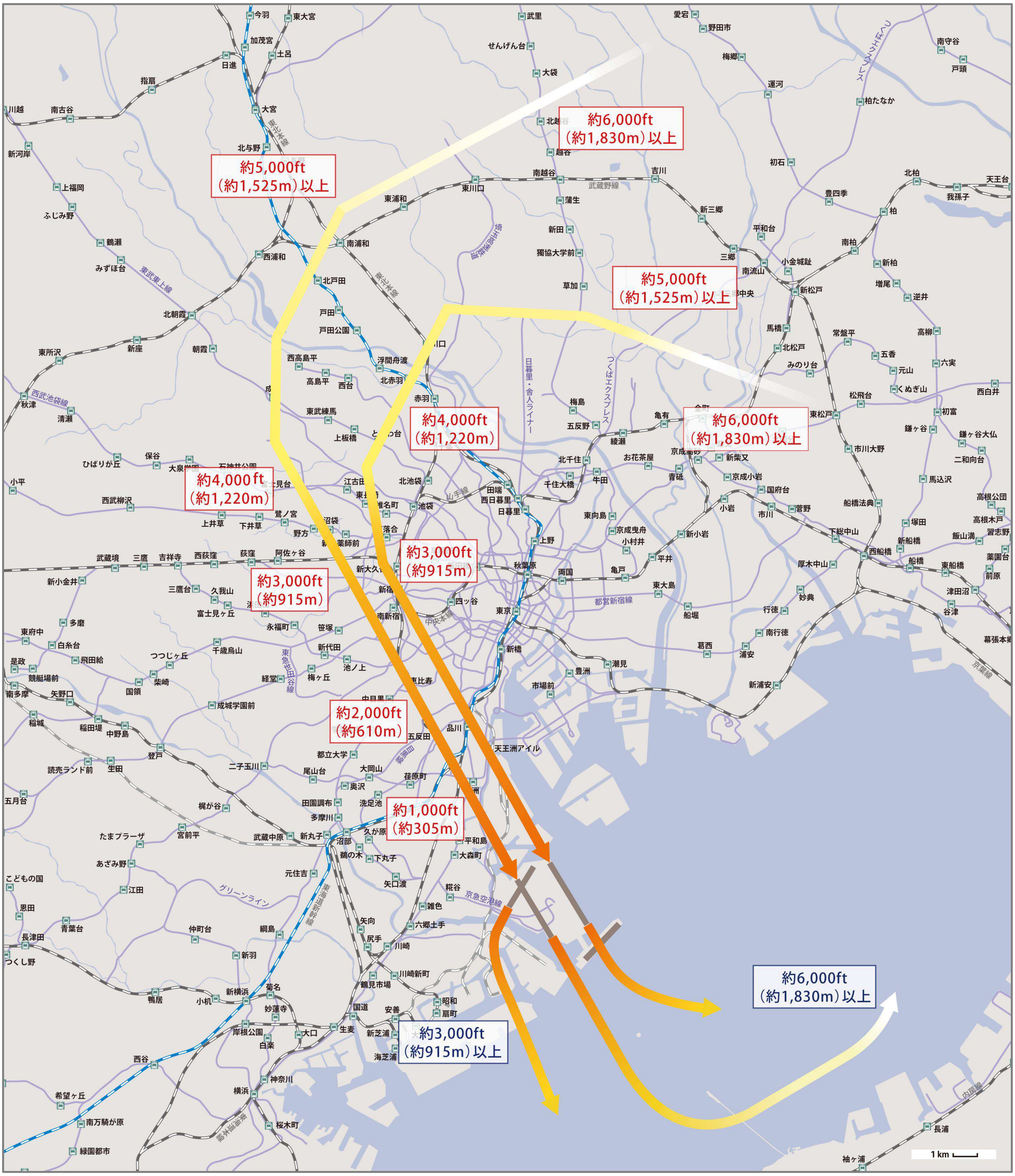
南風 新飛行経路案 好天時 １５～１９時

○南風運用の割合は、運用全体の約４割（年間平均）



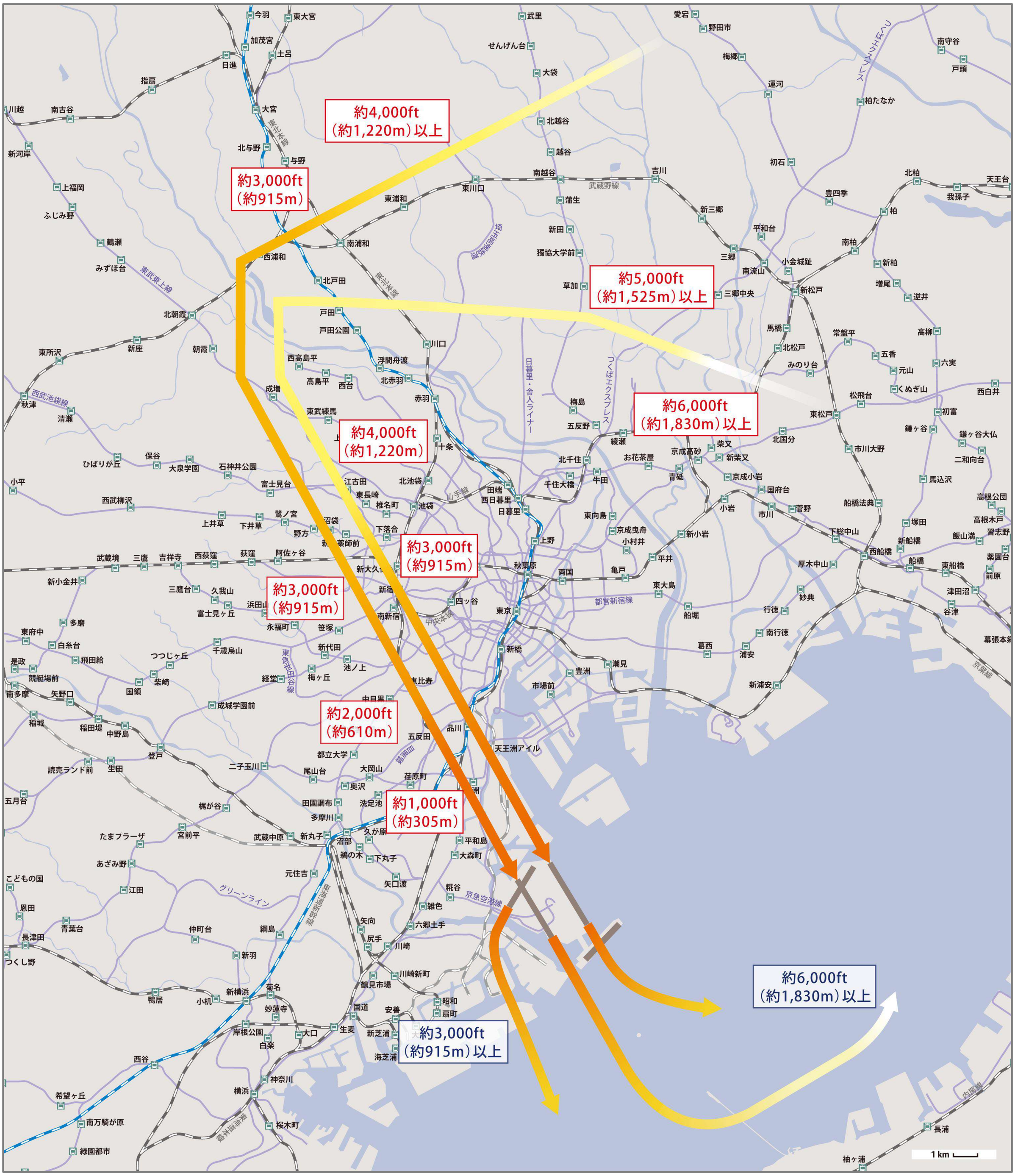
凡例	▼到着経路	▲出発経路
	低 ← 高 1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～	低 → 高 2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～

※１ 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。
※２ 15～19時は、経路の切り替え時間帯を含んだもの。

南風 新飛行経路案 悪天時 １５～１９時

国土交通省

○南風運用の割合は、運用全体の約４割（年間平均）



凡例

▼到着経路

低 ― 高

1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～

▲出発経路

低 ― 高

2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～

※１ 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

※２ 15～19時は、経路の切り替え時間帯を含んだもの。

南風 飛行経路 好天時 それ以外の時間

国土交通省

○南風運用の割合は、運用全体の約４割（年間平均）

約2,000ft
（約610m）

約4,000ft
（約1,220m）

約2,000ft
（約610m）

約6,000ft
（約1,830m）以上

約3,000ft
（約915m）以上

凡例

▼到着経路

低 ← 高

1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～

▲出発経路

低 → 高

2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～

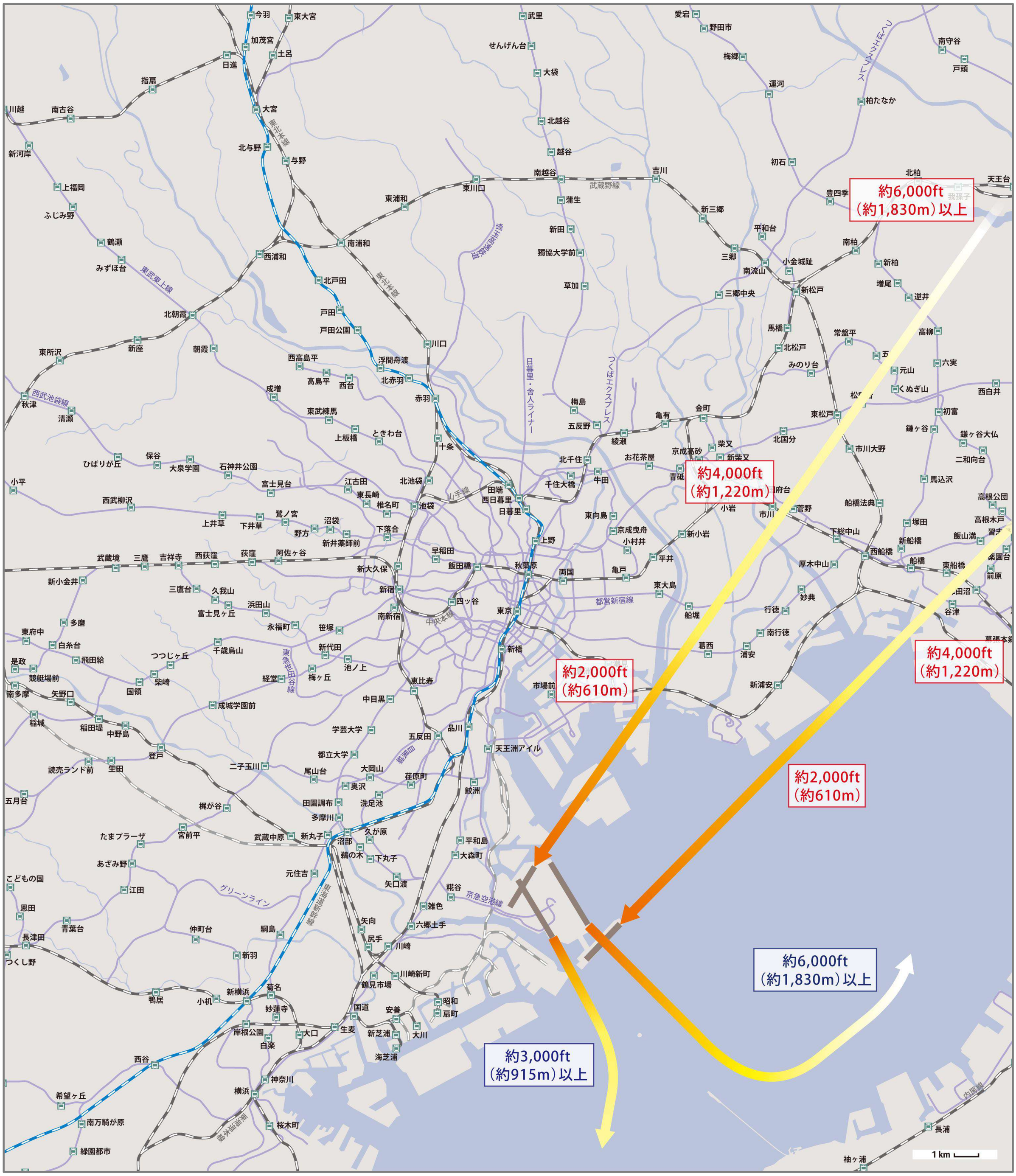
※１ 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

※２ 深夜・早朝時間帯(23時から６時まで)については、海上を飛行する経路を使用。

南風 飛行経路 悪天時 それ以外の時間

国土交通省

○南風運用の割合は、運用全体の約４割（年間平均）



凡例

▼到着経路

低 ← 高

1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～

▲出発経路

低 → 高

2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～

※１ 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

※２ 深夜・早朝時間帯(23時から６時まで)については、海上を飛行する経路を使用。

北風 新飛行経路案 ７～１１時半・１５～１９時

〇北風運用の割合は、運用全体の約６割（年間平均）

凡例

▼到着経路

低 ← 高

1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～

▲出発経路

低 → 高

2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～

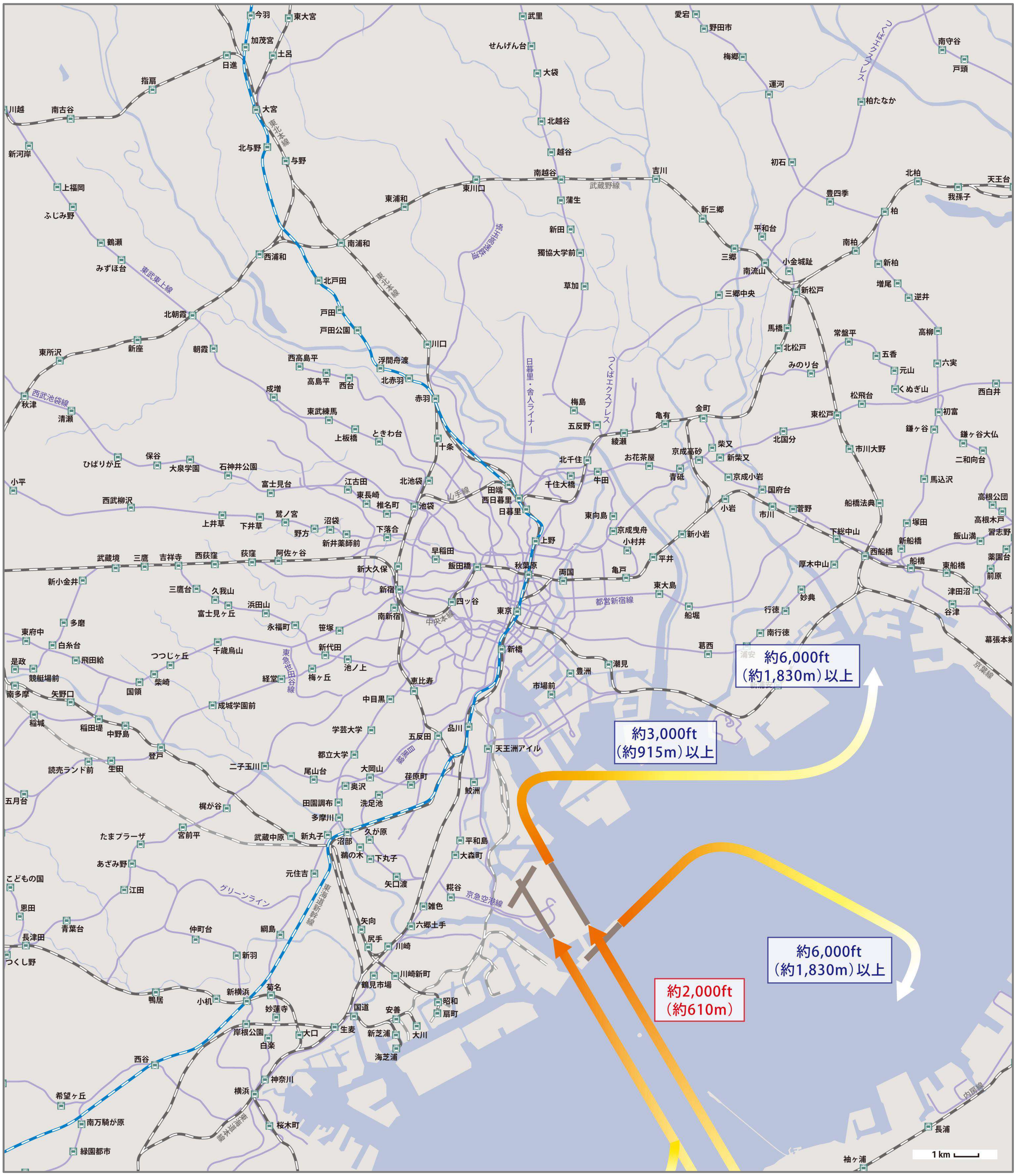
※１ 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

※２ 15～19時は、経路の切り替え時間帯を含んだもの。

北風 飛行経路 それ以外の時間

国土交通省

○北風運用の割合は、運用全体の約６割（年間平均）



凡例

▼到着経路

低 ← 高

1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～

▲出発経路

低 → 高

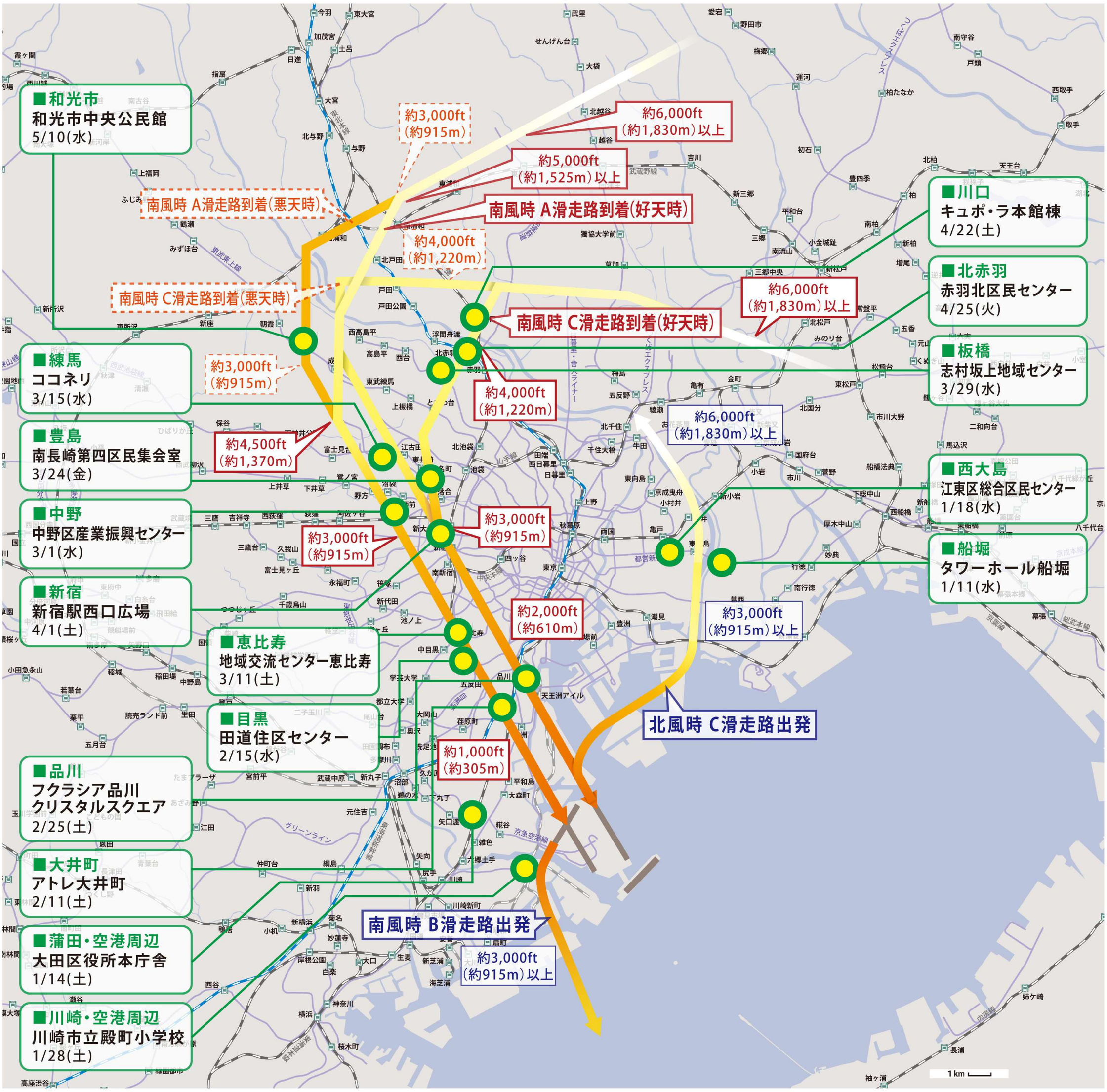
2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～

※１ 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

※２ 深夜・早朝時間帯(23時から６時まで)については、海上を飛行する経路を使用。

■説明会（オープンハウス型）の開催場所

国土交通省



○南風運用の割合
運用全体の約４割（年間平均）

○南風時新経路の運用時間帯
15:00～19:00（切替時間を含む）

○北風運用の割合
運用全体の約６割（年間平均）

○北風時新経路の運用時間帯
7:00～11:30及び
15:00～19:00（切替時間を含む）

上記以外の時間帯については、現行の飛行経路で運用

凡 例

▼到着経路

低 ← 1,000ft　2,000ft　3,000ft　4,000ft　5,000ft　6,000ft～ → 高

▲出発経路

低 → 2,000ft　3,000ft　4,000ft　6,000ft～ → 高

説明会の開催場所

※出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載（実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行）。